

経済学部報 教育後援会報

[目次]

- 学部長メッセージ
- 経済学部 FAQ
- 学生生活と就職活動について
- 経済学部の海外学修
- 卒業生寄稿
- 保護者理事に聞く

横浜国立大学経済学部
YNU 経済学部教育後援会



2025 January

学 部長メッセージ

経済学部長
伊集 守直



横浜国立大学経済学部は1949年の横浜国立大学の創立とともに設立されました。また、経済学部の前身となる横濱高等商業学校（横濱高商）が文部省直轄学校として1923年に設置されてから、昨年度で100周年を迎えました。経済学部は横濱高商以来の伝統を受け継いで、理論と実践の両面からバランスよく教育することを重視し、国際貿易港横浜を背景とした国際色豊かな教育を進めています。

具体的には、グローバル化する経済社会の問題を論理的、数理的、統計的に分析・探究する力を持つ人材の育成を目指しています。新入生は、導入教育として数学、外国語、情報処理、統計、コミュニケーションの基礎を学び、経済学の基礎科目を受講します。2年次以降は現代経済学の基幹科目と専門応用科目を幅広く受講します。その上で、3年次からは「グローバル経済」、「現代日本経済」、「金融貿易分析」、「経済数量分析」、「法と経済社会」の専門分野から主分野と副分野を選択し、経済学の高度な理論と応用について学習します。同時に、演習形式のゼミナールでは、より具体的な研究テーマについて学生と教員が活発に議論しながら学びを深めます。4年次はゼミナールでの研究活動をもとに卒業論文の執筆に取り組みます。

2021年度からは、経済学部の新たな教育プログラムとして、経済学の専門性と情報処理・統計分析能力の融合により新たな価値創造ができる人材を育成するデータサイエンス教育プログラム（DSEP）、法学・政治学をベースにエビデンスに基づく課題解決を担う人材を育成する教育プログラム（LBEED）を開始しました。さらに、2023年度からは、学生の学習意欲に応じて、早期の専門学習に取り組むことができるコース（Econ-ROUTE）を開始しました。DSEP、LBEED、Econ-ROUTEでは、5年一貫教育を選択することで、大学院国際社会科学府博士課程前期に進学して、修士号まで取得することもできます。5年一貫教育での進学に限らず、経済学の研究をさらに追求したい学生には、博士課程前期（修士課程）や博士課程後期に進学して、修士号や博士号を取得する道が開かれています。

経済学部は新しい時代を切り開き、内外で活躍する人材を数多く世に送り出してきました。これからも経済学部教職員は丸となって学部教育の高度化と充実化に取り組んでまいります。

1

経済学をベースとした
データサイエンス能力を
身につける

DSEP

Data Science Education
Program

2

法学・政治学をベースに
現代社会で直面する課題を
解決する能力を身につける

LBEED

Lawcal Business Economics
Education Program ※

3

早期の専門学習に
取り組むことが
できるコース

Econ-ROUTE

2023年度から開始

※ Lawcal とは、地域 (local) と法 (law) を組み合わせた造語です。

経 済学部 FAQ

Q 経済学部 DSEP の特徴はなんですか？

A 経済学部 DSEP では、既存の経済学部科目に加えて、1 年次からデータサイエンス科目を体系的に学ぶことができます。また、2 年次からインターンシップへの参加が推奨されます。

Q 経済学部 DSEP は、経済学部の一般プログラムと比べて、授業の取り方などはどのように異なりますか？

A 卒業のための必要単位数は一般プログラムと変わりませんが、専門基礎科目、専門基幹科目、専門応用科目といった科目群の中で、修得すべきデータサイエンス科目の単位数が決められています。

Q LBEEP は、経済学部の一般の教育プログラムと比べて、授業の取り方などはどのように異なりますか？特色のある科目としてはどんなものがありますか？

A 課題発見などの方法論を学ぶ「課題発見の手法」や、外部の人の話なども聞いて問題意識を高める「導入演習」を 1 年生のときに受講し、3 年生や 4 年生で「産学官連携科目」を受講できるのは LBEEP 生のみです。実社会の課題を少人数教育で学ぶサンドイッチ教育のパンの部分が LBEEP の特色です。

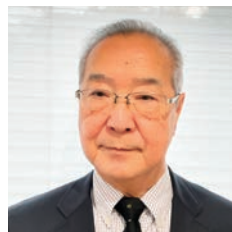
Q 産学官連携演習ってどのような科目ですか？

A 企業や自治体などで実際に実務に携わっている方々とも連携しながら、実践的に知識を深めていくタイプの演習です。



学 生生活と 就職活動について

就職相談員
木野 恒雄
(昭和48年卒)



私は学生さんたちの就職相談を担当している、木野と申します。
(学生支援課就職支援係、キャリアサポートルームで、対面相談をしています。ZOOM 相談もあります)
大学に進学して一学期が過ぎました。受験勉強から脱し、社会人の「たまご」としてスタートしたわけです。親元を離れて、一人生活をしている学生さんも多い事と思いますが、ご心配いばかりかと、心中お察し申し上げます。一人住まいは寂しいものです。たまには、電話やメールをしてやってください。本人は照れるかもしれませんが、励ましになるはずです。学生の本分である勉強だけでなく、クラブ活動、友人作り、アルバイト、旅行などなど、やりたいことは山ほどあると思います。また、横浜国立大学は海外からの留学生が多いのが特徴で、同じキャンパスでの交流は活発に行われております。勇気を出して、もう一歩踏み出し、留学生との交流を進めていくことも大事だと思います。

「就活」の現状について、時系列に整理してみたいと思います。保護者の方もご参考にされ、頭の隅に入れておいてください。

- 1 3年生 5-6月頃からインターンシップ(企業就業体験)の申し込み準備が始まります。2年生が終わるとすぐに就活が始まります。
- 2 実際のインターンシップは、3年生 8月-9月(夏) 12月-1月(冬)に実施されます。
- 3 志望企業への応募は3年生の後半の2月-3月、面接は3月-5月に多いようです。
- 4 会社側の内定は企業の都合により異なりますが、4月-5月が多いようです。

注意 近年の人手不足のため、11月-翌年1-2月の早期内定を出し、学生の抱え込みをする企業も出始めているようです。

実際に企業訪問・インターンシップ(企業就業体験)は3年生に入るとすぐに始まります。1年生、2年生の間に情報を整理し、準備を進めた学生さんが早くに内定を勝ち取ります。最近では、通年採用の企業も出始めているようですが、まだ圧倒的に4月の新卒一斉入社が多い事が現実です。

具体的には、下記3項目を実践していただきたいと思います。

- 1 **新聞を読む習慣をつける。**
スマホから情報を取っている学生さんが多いが、自分の好みに合った情報に偏ることが多いので要注意。
- 2 TVのニュースや、報道番組を視聴し、**世の中の大きな流れ、を理解しておく。**
- 3 多くの分野の方々と交流を持ち、積極的に会話をし、コミュニケーション能力をつける事。そのためにも、**多くの疑問と好奇心を忘れずに生活して欲しい**と思います。

最後に、就職活動の具体的な企画・アドバイス、各種資料の提供は「横浜国立大学キャリアサポートルーム」で行っておりますので、早いうちからご利用されることをお勧めいたします。



経 済学部の海外学修

欧州英語討論会で得た経験を振り返って Fさん (2016年経済卒)

私は2012年、経済学部主催の欧州英語討論会というプログラムに参加しました。約12年前の話にはなりますが、大学2年生当時の取り組みを振り返り、体験談を書かせていただきます。

欧州英語討論会とは、YNU学生のグローバルな視点を育むために、実際にヨーロッパの現地大学に訪問、現地学生と意見交換・討論するプログラムです。私は当時第7回のプログラムに参加しました。渡航は10日間で4カ国(フランス、ベルギー、ドイツ、トルコ)を周遊訪問するものとなっており、そのうちトルコのOzyegin大学・ドイツのオスナブリュック大学にて討論する予定となっていました。

参加のきっかけは、当時仲の良いサークルの先輩から前年に参加した感想を聞き、「海外の人たちともう一步踏み込んだ話ができそうだ」と考えたことでした。私が参加した年には20名の参加者が決定、5名1チームに分かれ海外大学で討論するテーマを考えることから準備はスタートしました。私のチームでは、2011年に東日本大震災が起きたこと・訪問国のトルコが地震多発地帯に位置することの共通点から、「日本の地震対策」にテーマを決定。チーム内に留学生もあり、多様な考えを持つメンバーと共に約3ヶ月間の準備を経て討論会プログラムの渡航日を迎えました。ドイツの大学での討論会では持ち込んだテーマに対して、自然災害のリスクを踏まえたエネルギー政策転換への質問をもらう等、活発な意見交換を行いました。その日の夜はビールを片手にドイツ人学生と深く交流し、欧州文化や彼らの考え方を理解するなど1日を通して貴重な経験となりました。トルコの大学での討論会では、トルコと日本の地震対策の取り組みの違いを比較、意見交換でき、お互いの視野や見識を広げる機会となりました。プログラム期間中は全体を通して討論会前後・観光などで現地の方との交流の機会も多く、多くの異文化に触れ、刺激的で楽しい時間を過ごすことができました。

日本帰国後に実施した報告会では、経済学部教授・教員の方々や翌年度のプログラム参加を検討している学生へ本プログラムでの学びを共有し、プログラムは終了。短期間ではありましたが、この体験を通じて英語力に少し自信がつき、より長期で海外に挑戦してみたいという思いも強くなり、その後1年間の交換留学に挑戦。留学後の就活ではグローバルで多様なメンバーと仕事をしたいという思いから、海外売上が高いグローバルメーカーに入社するなど、本プログラムがその後の人生におけるターニングポイントであったと考えています。

私が参加した2012年の欧州討論会から10年以上経ちますが、今でもたまたま本プログラムの同窓会を開催しています。2012年前後に参加したメンバーを含め数十名が参加し、卒業後の近況など皆の活躍を聞くのはとても刺激的です。本プログラムを通じて、良い仲間に出会えたと感じています。



多くの学生さんにとって、長期留学は多くの準備や覚悟などハードルが高いと感じるかもしれませんが、欧州英語討論会は、今まで培った経験を海外という新しい環境で少し背伸びしてトライする観点で、非常に良いプログラムだと考えています。私自身グローバルな考え方を養い、その後のキャリア選択や新しい人間関係の構築に繋がっておりますので、ぜひYNU現役生の方々に本プログラムを活用いただければと考えています。



「エディンバラサマースクール体験記」

経済学部 1さん

私は1年生の夏にエディンバラサマースクールに参加しました。留学にそれほど強い希望があったわけではなく、英語力も高かったわけではないのですが、とにかく申し込んでみようと思ったことがきっかけでした。私は一人暮らしだったので、エディンバラに行くための準備を一人でやることが多く不安でした。しかし、事前にランチミーティングがあったことがとても助けになりました。留学のメンバーや先生と顔を合わせ、仲を深め疑問や不安を共有できたことで、スムーズに準備を進めることができました。

エディンバラに到着してからも、やはり不安はありました。文化や人の違い、学習面での不安を感じる人は多いのではないかと思います。しかし、エディンバラ大学の先生やメンターさんが温かく迎え入れてくださり、サポートしてくれたおかげで安心して生活を始めることができました。先生やメンターさんは学習面だけでなく、生活面でもサポートしてくれました。授業のない時間に近くのレストランを紹介してくれたり、エディンバラの歴史ある観光地に連れて行ってくれたりするなど、豊富な知識で私たちを楽しませてくれました。現地の方たちのおかげで、自分たちだけではできない貴重な経験をたくさん得ることができました。



大学での活動について、エディンバラでの学びは多岐にわたりました。主に週五日の授業で、基本的な英語のスキルを高める活動はもちろん、授業中に話す機会が多く、自身の英語力を大幅に高めることができました。特に印象に残っているのが、エディンバラでの最後の活動として行われたプレゼンテーションです。2～3人のグループでテーマを決め、プレゼンをするというものでしたが、資料集めや読み込み、スライドの作成や構成などすべて英語で行うため、時間も労力もかかります。それでも学んだことの最大限生かし、メンバーと協力してしっかり準備したことで最後までやりきることができました。このほかにもたくさんの魅力的かつやりがいのある活動がたくさんあり、これらの活動を通して、最初は黙り込んでしまうほどだった私も人前でははっきりと話せるようになりました。

授業のない時間は基本的には寮で過ごし、メンバーと一緒に過ごしました。たくさん話し、生活を共にすることで仲を深め、楽しい時間を過ごすことができました。一緒にご飯を作って食べ、日本にはない料理や飲み物に挑戦もしました。寮には共有スペースもあったので卓球やビリヤードをすることもありました。休日には観光に行きました。エディンバラではちょうど祭りの時期だったので路上でのショーやイベントに行くときもあれば、土日でロンドンなど遠くに出かけることもありました。想定外のこともたくさんありましたが、ずっと行きたかった観光地に行けたことは一生の思い出になりました。休日を利用して短い留学生活をさらに充実させることができました。

エディンバラでの経験を通して、多くのことを学び、成長することができました。異文化の中で生活することで、視野が広がり、多様性を理解する力が身につきました。英語の能力をのばし、現地の方とたくさん交流できたことは大きな収穫です。留学前の準備から現地での生活、学習まで、多くのサポートがあったおかげで、安心して新しい挑戦をすることができました。このプログラムは、貴重な経験となること間違いありません。ぜひ、挑戦してみてください。

「北欧フィンランドに留学して」

経済学部 Sさん

私は2年の秋学期から3年の春学期にかけておよそ10か月間フィンランドのオウル大学というところに留学し、ビジネススクールで経済学や経営学について学習してきました。言語に気候に物価と身の回りのあらゆるものが日本とは桁違いな環境に飛び込み、何もかもが試行錯誤の繰り返しだった留学生活は、これまでの自分の考えやこれからの自分の進路に根源的な変化をもたらしたと感じています。そもそもなぜフィンランドをあえて選んだのかですが、それは世界一幸せな人々といわれ、また世界一と呼ばれる教育を受けて育った人々と一年間も一緒に過ごす機会は後にも先にもここしかないと思ったからです。観光に行ったのでは見つけられないその真相や理由を探りたいという興味から、留学を決めました。

私が通ったオウル大学はフィンランドの教育、先進的な北欧建築、主要産業であるIT通信を学ぶ学生を中心に非常に国際色豊かな環境で、充実した設備や24時間の施設開放といった教育への盛んな投資には目を見張るものがありました。講義はすべて英語で週4日程度でしたが、一回の講義に対する準備の比重は大きく、論文や教科書の読み込みはもちろんのこと、グループで取り組む課題も多いという違いがありました。私が出会った学生の多くは非常に優秀で、少人数の講義で、建設的な議論を築こうと謙虚にも熱意をもって意見を述べる姿は印象的でした。授業の一環でビジネスプランコンテストに参加することになった際は、各々のアイデアを融合させるのに手間取り、事業の形態についてもなかなか意見がまとまりませんでした。最終的に北欧デザインを家具や洋服だけでなくデバイスや文房具、日用品など新たな分野に応用するためのプラットフォームを作成するという起業案で4位という結果を収めることができました。

一方で休日とはいうと、フィンランドの大自然を満喫すべくいろいろなところに出かけました。ベリーを摘みに森へ行ったり、凍った海の上で夕日を眺めたり、湖畔でBBQをしたり、サウナの後に川に飛び込むこともありました。また、地元のラグビーチームにも所属し、子供や地域の人とも交流を深めました。決して強いチームではありませんでしたが、本物の家族のように仲が良く、一人ひとりが向上心をもって練習に取り組んだ結果、7人制のリーグで優勝することができました。こうして新しくできた友達とは、たまに日本食パーティーをすることもありました。贅沢にフィンランドのサーモンを使った手巻き寿司や照り焼き、豚の角煮に餃子はいずれも好評で、レシピを教えた友人たちは今もたまに自分で作ってはその出来栄を報告してくれます。



さて、冒頭の果たして「フィンランド人は世界一幸せなのか」という問いですが、私は彼らも、我々と同じように幸せだと位置づけます。しかしながら、定時の4時には仕事がスパッと終わり社会人でも習い事や趣味が続けられるところ、教育が無料で何歳でも大学に戻って学位をとれるところは今の日本では考えられず、この毎日刺激を受け、充足を感じられるフィンランドの環境が彼らを最も幸せであると自覚させているのではないかと考えます。残念ながら私自身フィンランドで10か月間過ごし、自分の幸福度に変化があったとは感じませんし、むしろウクライナとロシアの情勢、冬の日照不足からくる鬱や唐突なアジア人差別に悩まされたこともありましたが、それでも尚たくさんの出会いや学びに恵まれて、本当に夢のような留学だったと思います。今回の留学を快諾してくれた家族、留学前から今もお世話になり続けている国際留学係様、経済学務係様には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。またこの文章が留学を考えている方の一助、後押しになると嬉しい限りです。



「テレビ報道とロシア点描」

前 NNN モスクワ支局長
東郷 達郎 (1985年卒)

「ウクライナ政府によって虐げられ、ジェノサイドにさらされてきた人々を保護するために特別軍事作戦を実施する」一。2022年2月24日早朝、ロシアのプーチン大統領はテレビ演説でこう宣言し、ウクライナ東部への軍事侵攻を開始しました。私がテレビ局の特派員としてモスクワに赴いたのは、その1か月半後の4月16日でした。奇しくも侵攻直後から2024年5月末までの約2年間、戦争当事国となったロシアをモスクワで見ることになりました。この寄稿では、テレビ報道の仕事と侵攻開始後のロシアについて、ニュース番組では伝えられなかった部分を中心に話したいと思います。



2023年ロシア自民党大会取材中の筆者

■ 地方局にもある特派員枠

私が経済学部を卒業したのは1985年です。多くの同期が金融関係に就職する中、私は社会のことを広く知ることができる仕事に就きたいと報道機関を志しました。横浜出身ですが、高校時代から北海道への憧れもあったので札幌テレビ（日本テレビ系）に入社しました。北海道には“北海道でしか取材できないテーマ”がいくつかあったのが理由のひとつです。例えば、アイヌ民族、日本最大の野生動物ヒグマ、そして北方領土などで、実際に私はこれらのテーマを中心に取材活動とドキュメンタリー番組制作をしてきました。そしてもうひとつが、札幌テレビが海外特派員を出していることでした。幸運にも私は在職中に2回、海外に赴く機会がありました。

参考までに民間放送の海外特派員について簡単に説明しておきます。民間放送は、テレビ東京系を除いて、各系列（日本テレビ、TBS、テレビ朝日、フジテレビ）とも、東京、大阪、名古屋、福岡と札幌の5つの基幹局が海外特派員を出しています。もちろん、東京と大阪の局からの派遣数が多いのですが札幌の局も一枠もっているのです。

■ ロンドンとモスクワ

私の1回目の海外赴任は1995年から98年の3年間でした。当時、札幌テレビが担当していたロンドンの二番手記者でした。写真は、トニー・ブレア首相にインタビュー取材した時のものです。この期間の大きなニュースとしては、保守党から労働党への政権交代（97年5月）、ダイアナ妃の事故死（97年8月）、天皇陛下（現上皇さま）の公式訪問（98年5月）などでした。ことし（2024年）の英国発のニュースと似ていますね。

そして2回目が冒頭に記したモスクワでした。「よくぞご無事で…」一。帰国後に再会した知人のほとんどが私にそんな労いの言葉をかけてくれました。



1997年英国ブレア首相へのインタビュー

でも、私が2年1か月暮らしたロシアは、日本でイメージされているロシアとは全く違いました。ここから先は、モスクワ特派員として放送の通じては伝えきれなかったことを中心にご紹介したいと思います。

■物価は安く安全なモスクワ

皆さんがいま抱いている「ロシア」はどんなイメージでしょうか？ドローン攻撃を警戒しながら、経済制裁によって不足する物資を買い集め、警察に密告されないよう下手な噂話はしない…。期待を裏切るようで恐縮ですが、これらは実際のモスクワの暮らしからはかけ離れています。私も赴任前は同じようなイメージを持っていたのですが現実は異なっていました。確かにウクライナと国境を接する州には、ドローンやロケット弾が飛んできていました。しかし、モスクワ市内にまでドローンが飛んできたのは2023年の一時期だけで“戦時下”のイメージとは無縁の生活でした。スーパーには生鮮野菜や果物があふれ、通りのカフェでは人々がテラス席で憩いを楽しんでいました。世界的に見れば物価も安く、日本食でさえ簡単に手に入りました。参考までに2024年1月時点でのモスクワの物価をご紹介します。

「危ない目にあうことはなかったのですか」―。これも帰国してから良く聞かれた質問です。結論から言うと「いいえ」です。まず、最近のモスクワの治安はこの10年で改善し、私の在任中は日本よりも安全なのではと感じるくらいでした。当初は「地下鉄にはスリがいるから」などという忠告も受けましたが、そんな場面には遭遇しませんでした。「日本人」「東洋人」であることを理由にした差別を受けるようなこともありませんでした。ロンドンでは時々感じた“東洋人”であるが故の居心地の悪さはモスクワにはありませんでした。

■非友好国”日本のメディア

取材活動について言えば、“非友好国”になった日本の記者に対しては若干の嫌がらせはありました。一番キツかったのは、ウクライナ侵攻前には有効期限「3年」だった特派員ビザが「3か月」に短縮されたことです。通常、更新には1か月かかるので、在任中は年から年中ビザの延長作業を強いられました。加えて侵攻開始2年目の2023年は、大統領府が所管するイベントには参加申し込みができませんでした。例えば5月9日の「戦勝記念軍事パレード」や「サンクトペテルブルク経済フォーラム」などです。西側メディアに取材を認めても、批判的にしか報じないので排除したのだらうと想像します。ところが3年目、2024年になってからは西側メディアの取材を再び認めるようになりました。ウクライナの戦況もロシア有利が報じられるようになって少し余裕が出てきたのかも知れません。政府機関以外の取材先にも時々、「非友好国・日本のメディアの取材は受けない」と断られたことはありました。先方がロシア政府の意向を勝手に忖度していたようですが、それは一部です。私の感覚では、日本で想像するほど取材活動の制限はありませんでした。



果物が山積み目のスーパーマーケット

理容 (45 分カット)	2000 ルーブル	(約 3000 円)
地下鉄 (1 回)	65 ルーブル	(約 102 円)
飲料水 1.0 ボトル	55 ルーブル	(約 86 円)
卵 1 個	12 ルーブル	(約 19 円)
レタス 1 玉	130 ルーブル	(約 204 円)
国産ビール 500ml 缶	65 ルーブル	(約 102 円)
ハンバーガー (旧マック)	62 ルーブル	(約 97 円)
日本製即席ラーメン	640 ルーブル	(約 1005 円)

■ ロシアに『言論・報道の自由』はあるか

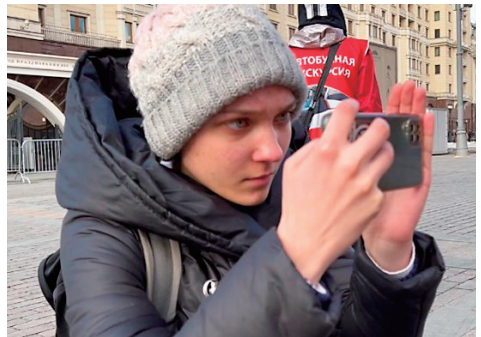
皆さんが一番知りたいのは、ロシア国民は政府発表以外の情報を得ているのか、という点かも知れませんが。ロシアメディアに関して言えば、一次情報を発するのはタスのような国営通信社です。テレビ局は国営か政府系で全て政府の監視下に置かれていますので、政権を批判するような報道はありません。ただ、現代はネットメディアが普及していますから独立系メディアが存在し、政権批判も国内外から発信されています。ネットを使わない年配者は国営メディアの情報に左右されますが、若い世代は外国を含めたメディアから情報を得ています。3月中旬に行われた大統領選挙の際に、独立系インターネットメディアの記者を取材する機会がありました。その答えが極めて明快だったのでそのままご紹介したいと思います。SOTAvision アンナ・スリーバ記者（19）へのインタビューです。



国営タス通信本社

一 いまロシアに「言論の自由」「報道の自由」はあると思いますか？

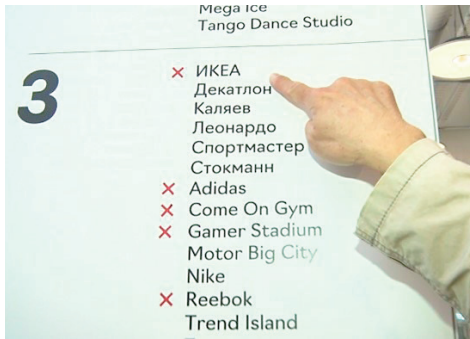
一 いまは戦争犯罪を伝えることは出来ません。国防省が発表した情報しか使えないのです。この制限の中で仕事するのか、外国に移るのか。あるいは、全く地下で（非合法的に）仕事するかです。でも、ロシアにも「報道の自由」はまだあります。妨害されていますが…独立メディアが残っています。「言論の自由」も、まあ、存在していますね。キッチンで冗談を言ったからと言って懲役 10 年の処分を受けたスターリン時代ほどひどくはないです。もし、ロシアに一切の「言論の自由」がなければ私がこのインタビューに応じることもなかったでしょう。政権がやる気になれば、このインタビューで私を行政違反に処せる可能性はあるのです。つまり、「ロシアの言論の自由」は中途半端な状態。抜け穴はあって、自由な思想に対する罰は、ロシアの歴史や世界の歴史であったようなひどいものではありません。



独立系ネットメディア アンナ・スリーバ記者（19）

■ ロシアで頑張っていると日本から批判される？

ロシアに残っている日本企業のことについても触れたいと思います。マクドナルド、スターバックス、アディダス、イケアといった西側企業は早々に撤退したことは知られています。帝国データバンクの 2024 年 2 月のデータでは、侵攻前に 168 社あった日本企業のうち、撤退したのは製造業を中心に 35 社、およそ 20% だそうで、まだ 100 社以上が規模を縮小しながらも残っています。日本貿易振興機構（JETRO）の残留企業アンケートでは、回答企業の 6 割が「事業の一部もしくは全面的に停止している」として回答していますが「撤退」ではないのです。あのユニクロも店舗こそ閉めているものの「事業停止」として撤退とは言っていない。興味深いのは「事業停止」の理由です。一番多かったのは「ロシア事業の継続で批判を浴びるレピュテーション（評判）リスクの回避」だといいます。つまり、「ロシアで商売ができないから」ではなく「ロシアで商売をしているとわかって日本国内から『まだロシアと付き合っているのか』という批判を受けるから」なのです。私が知り合った日本食レストランの経営者もこんな話をしていました。「日本メディアのインタビューで『制裁で困っているか？』と質問されたので『困っていない』と答えたら、日本国内の



ショッピングモールの表示

■ ニッポン大好きロシア人

最後にロシアの人たちのこともお話しします。政治的には日本は批判の対象ですが、彼らはニッポンが大好きです。「SUSHI」レストランは地方都市に行ってもありますし、モスクワのスーパーではパックに入った寿司が並んでいます。「とんこつラーメン」を出すラーメン店は、いつ覗いても箸でラーメンをすするロシア人でいっぱいです。「MANGA (漫画)」展が開催されればロングランにも関わらず大人気。去年暮れには、モスクワの映画館で宮崎駿監督の「君たちはどう生きるか (露題：鳥と少年)」が一斉に公開されたのも印象的でした。大学では日本語を教えているところも多く、そのレベルが非常に高いのも驚きです。多くの日本人は「ロシアは非友好国・日本を拒絶している」と思っていますが、これは完全な誤解です。ロシアはサハリンの天然ガスを日本に売っています。カニを筆頭にしたロシア水産物の輸入額は2022年、ソ連崩壊後では最高になっています。また2023年から日本人は「16日間のロシア観光ビザ」が電子申請で簡単に取得できるようになりました。日本から引っ越し荷物はロシアに送り出せませんが、ロシアからは発送できます。つまり、日本側が色々な制限をかけているだけなのです。

徒然なるままに“一特派員が見た現在のロシア”を点描しました。現在、多くの日本人が抱えている誤ったロシアのイメージのものは、私を含め日本のメディア報道に責任があります。報じてきたことは間違いではないのですが“全体像ではない”ということです。学生の皆さんには、自分で情報を取捨選択する眼力をつけていただきたいと思います。また、卒業後に世の中を広く見たいと考える方には、メディアの報道部門も就職先の選択肢のひとつに加えていただければと思います。この時代、情報はインターネットで簡単に手に入りますが、そこに行ってみなければ分からないことはまだまだあるのです。

日本人から批判を受けて大変なことになった。『制裁で困っている』って答えなきゃいけないんだね。そんなこともあってロシアに残っている日本企業はいま、日本メディアの取材は受けてくれません。時が過ぎるのをじっと待っているのです。ただ残念なのは、そうこうしている間にロシアの市場が中国に奪われつつあることです。私が駐在したわずか2年の間にも、モスクワを走るクルマの中心が日本車から中国車へと変わってしまいました。



モスクワの「マンガ展」



稽古仲間と筆者

保護者理事に聞く

経済学部キャリア教育推進委員 中村 良夫

教育後援会の理事といってもなかなかその活動状況は会員の皆様に伝わっていないことが多いかもしれません。そこで今回は経済学部の担当教員である私から、保護者理事の皆さんに、実際にやってみてどうかという感想などをざっくばらんに回答していただきました。

Q 理事になってみようと思ったきっかけは何がありましたか？

- A
- ・子どもが選んだ大学に共に関わりたいと思ったからです。また、自分自身の新しい出会いも期待しました。
 - ・大学との繋がりがあった方が子供と色々話出来ると思ったから。
 - ・小学校等の様に頻繁に活動はないだろうと思いつくのであれば負担にはなることはないと思ったから。
(上の子の学校では親は学費を払っただけで全く様子がわからなかった)
 - ・コロナ禍で入学式は学生本人のみで、後援会説明会等がなく、担当の先生よりお電話をいただいたことがきっかけです。住まいが比較的大学に近い保護者からお電話をいただいたと思いますが、コロナ禍で色々分からないことも多く、せっかくお声がけいただいこともありやってみようかと思いました。
 - ・息子がお世話になっている大学で、何かお役にたちたかったからです。

Q 実際にやってみて、たいへんだったことやよかったことなどありましたか？

- A
- ・不慣れなこともありましたが、大学の先生や職員の方が丁寧に教えてくださったので困ることはありませんでした。むしろ、先生方や理事の方との活動は新鮮でした。子供が在学中の今しかできないことに取り組めたことがよかったと思います。
 - ・いいえ。他の保護者の方とお知り合いになれて良かったです。
 - ・大変だったことは有りません。強いて言えばコロナ禍での会議の時に zoom がちゃんと繋がるか、ドキドキしたくらいです。
 - ・今年は会長が広島在住、副会長が大阪在住ということで、保護者が役員を引き受ける上で大学周辺に住んでいなくても出来るという前例は作れたなと思っています。
 - ・入学後まだコロナ禍で、理事会もオンラインであったりしたこともあり、対面の役員会も一度しか参加したことがなく、特に大変と感じたことはありません。
 - ・なかなかお会いできない同学年の保護者の方々と情報交換ができ、有り難かったです。

Q 今後の教育後援会でこんなことができればいいなということがありますか？

- A
- ・保護者間で情報交換できる場が作れたら良いなと思います。
 - ・大学の保護者ともなると、講演会等に行く機会もありますが、イベント的な講演などがあつたら良いかなと思います。



理事会の様子（オンライン参加も可能）



令和5年度の理事会メンバーです

[発行]

YNU 経済学部
教育後援会 事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3

横浜国立大学経済学部 新研究棟2F 研究支援室

電話:045-339-3515

<http://www.econ.ynu.ac.jp/campus/support/ynu/index.html>